

云ふ人は趙重應と共に日本に亡命した者で、學才があつて文筆にも達した人である。當時李完用の秘書役を勤めて居つて、趙重應とも極く親密な間柄で在つた。此の兩人が東京に居つた時分に、其れは明治三十年前後であつたらう。私は星亨、松本君平などゝ一所に、神田の政治學校で講師をして居つた事がある。其の時に私が各國の政治制度を講演した筆記を講義録に連載した事があつたが其れを兩人が非常な興味を以て講習したと云ふ關係から、私が明治三十九年の初に、伊藤公と共に朝鮮に行つてから以來、私を舊師だと言うて交際をしてくれた。其の關係から李人植は時々私の宅を訪問したのである。初は別段使命を以て來たと

も思はなかつたのであるが、李人植は非常に沈鬱な容色を以て、「實は今日まで未だ曾て打明ける事が出來なかつたやうな重大な事件に對し教を請はんが爲に夜中乍ら參つたのであります」と云ふ前置の後に、大體下に記述するが如き問答を交換したのであるが、是れは一場の私談に過ぎないのであるけれども、實は此の李人植は首相李完用の旨を承けて細作の役目を以て來たのである。私も其の旨を諒として自分一己の意見で無く、寺内統監の言はんとする處を答へたのであるから、言はゞ是が併合談判の先驅とも言ふ可きもので、戰爭で言へば斥候戦とも視る可きものである。特に詳しく話す事にする。

## 考古學の葉

(第五回)

文學博士 濱田耕作

### 第四章 研究

#### 一 資料の整理

五一、資料の整理 發掘若しくは蒐集せる各種の遺物は、之に後章述ぶるが如き保存法を加へ、又た適當なる程度の修理を施し、其の發見の地點位置共存の狀態等に從つて各一群となし、之が混淆を避く可し。世間往々遺物の種類に依り、骨董的價値の如何に由り、共存の遺物を分割して顧みざるものあり。是れ誤まれるの太しきものと謂ふ可し。何者此の共存の遺物の種類を詳にすることは時代を判定するに最も必要な條件なること後に述ぶるが如きを以てなり。此際完全なる遺物は固より、土器破片の如きも最も重要な意義を有するものなれば、決して之を粗略に取扱ふ可からず

五二、眞偽の鑑別 學者親ら遺跡に就きて發掘したる遺物に於ては、其の必要を見ざるも、商賈等より聚集購入せるものに於いて、吾人は先づ遺物の眞偽を鑑別するの要あり。大なる土器等には偽物は多からざるも、價格貴き小なる物品に向つて

特に戒心を要す。偽物には全く新規に製作せるものと眞物を模したるものとあり。後者は其の色澤輕重形式の精確と模糊たる等の諸點より看破す可く、而も模作たることを明にすれば、學術上の價値全く無きに非ず。前者は之に反して多く無學なる工匠の造る所にして、平素眞物の性狀を熟知するものは大抵之を察するに難からず。如何に巧妙なる偽物と雖、何者にか辻褄の合はぬ處あり。之を熟覽するに從つて其間に不合理なる諸點の存するを看破するを得可し。又た偽物の一種に變造なるものあり。こは眞に古き物品の一部に加工し、故意に原狀を變じたるものを云ふ。例へば古碑の一面に銘文を加刻し、缺損せる物品を修補して完形の如からしむるの類これなり。此種のもの亦仔細に觀察すれば、其の變造の部分を發見すること必しも難きにあらざるなり。

五三、鑑識の要領 要するに眞偽の鑑別は其の物

品の傳來由緒を究め、製作の状態を精査し、之を既證の眞物と照合し、其の眞物たる條件に一々協へるや否やを検するにあり。古器物等の簡單なるものより、書畫等の美術品に至る迄、其の要領とする處は一なり。但し鑑識の事は單へに天賦の能力と熟練に俟つこと多く、智識の多少に相關せざること少なからず。天賦熟達之士は鑑識の瞬間之と比較照合す可き範疇例品忽に腦裏に現出し、殆ど直覺的に之を判するに至る。之を言説によりて説明すること困難なる場合多しとなす。

歐洲に於いて學者成は好奇心を以て偽物を造れるものあり、其著名の偽物に關しては Munro, Archaeology & False Antiquity (1905) に面白き記事あり。支那古銅器の偽物製作法を記せるものに「鐵網珊瑚」等あり、鑑識の參考とするに足る。吾人は常に周圍に蟄集する偽物に戒心すると同時に、餘りに懷疑的に陥る可からず。大英博物館が「ヒタイト」の貴重なる遺物 London 銀製品を永久に逸し去りたるが如きは其の一例なり。罕見のものとして自己の鑑識に迷ふものは宜しく眞偽不明

のものとして暫く之を存し置く可と。あらゆる古物に向つて眞偽を立ろに断ぜざれば學者の威嚴に關すると思惟するが如きは笑ふ可き虚飾と言ふ可し。

五四、遺物の等級 然りと雖鑑識の事固より十全を期し。故に學者は學術的發掘によりて獲たる遺物と、他の聚集品との間に嚴重なる差別を設け、後者は單に研究の參考としてのみ之を使用するを要す。若し之を混淆して明にせざるに於いては、其の研究の結果は全然科學的價値を失ふに至ること、正確なる文書記録と稗史小説とを共に同一價値の史料として取扱へる歴史家と同一一般なり。今此の點より考古學的資料を區別して、其の學術的價値に本き等級を附すること次の如し。

- 一、第一等遺物 考古學者自ら發掘し、發掘の地點狀態共存遺物の明なるもの
- 二、第二等遺物 發見地明確なるも其他不明のもの

三、第三等遺物 發見地不明なるも眞物なること疑なきもの

四、第四等遺物 眞偽不明なるもの

## 二 遺物の『集成』

五五、『集成』の必要 考古學的資料の根本的整理は遺物の『集成』(Corpus)を作成するに在り。而かも従來の學者意を此處に用ゐるもの少く、吾人は新しく發見せる遺物が従來發見せられたる同種のものなりや、將た全く類を異にするものなりや等を明にするに方りて、無益なる檢索と照合とを餘義なくせること、恰も完全なる目錄を有せざる大圖書館に在るの思あるを禁せざるものあり。而かも年々歳々増加し行く遺物は其の數莫大にして此の集成を作成し、完全なる分類の目錄 (Inventory) を作るに非ずんば、將來學者の研究は徒に無用なる勞力を、照合比較す可き既發見の遺物を檢出するに空費せらるゝに至る可し。

五六、『集成』の一例 佛のサルモン、レナツク氏 (Salmon Reinach) の編に係る "Repertoire" と題したる圖入分類目錄は、一種の『集成』として最も見る可きものに屬す。氏は舊石器時代彫刻繪畫より、希臘羅馬彫刻、希臘彩繪土器等に關して之を試み、吾人は新發見の遺物に就きて、直ちに其の形式の類同差異を此書によつて檢出し得可し。又たペトリイ教授が埃及有史以前の土器を試みたる『集成』と其の分類は吾人の參考とするに足るものと謂ふ可く、教授は先づ凡ての土器を九種に分ち之に B R F N 等の大文字を附せり。例へばおは Black-topped Pottery, R は Kung-faced Pottery を意味するが如し。次に此の各種を (一) に至る數字を以て其の形式タイプを分ち、B<sub>1</sub> の如くし、更に其の變種ヴァリエーションを示すに a b c 等の小文字を以てせり。斯くて例へば R<sub>63</sub> と云へば Rough-faced 土器の第六十三形式。變種なるを知る可し。斯の如き分類

集成は之に附隨せる圖影と相俟ちて、新發見の土器の形式的位置を立ちに解決するを得しむ。

此の形式の分類は皿の如く開きたるものを先とし、壺の如くツボみたるものを後とし、數字は必ずしも連続せず。形式の差異著しき時は中間を缺落し置きて將來の補入に俟つ。これ最も注意す可き點なりとす。斯くてペトリー氏は埃及有史以前土器に於いて形式變種を合して約一千の分類をなせり。(Petrie's *Antiquities of Egypt*, Diopispolis Parva; Methods & Aims, p. 124)

五七、歐洲に於いても此の『集成』若しくは圖入分類目録の考古學的資料に試みられたるは、遺物の種類の一小部分に限られたり。前記レナツク氏及ペトリー氏のものを除きて他に未だ其の例を見ること少し。我國に於いて學者の石器土器等の形式分類を試みしもの必しも無きに非ざるも、其の目的とする所、當座自説の發表に利用するに過ぎずして、永久的に考古學的資料の整頓を目的とするに非ざるなり。吾人は少くとも祝部土器彌生式土器繩紋土器等の『集成』と『分類目録』を作成して、

考古學的研究の基礎的事業に資せざる可からず。學者徒に未熟なる學説の提供に急にして此種の努力に意を用ゐざるは慨す可しとなす。

### 三 層位學的及土俗學的研究

五八、層位學的研究 遺物の『集成』と『分類目録』の作成とは考古學的資料の根本的整理なるが、考古學者は此の資料を處理して研究をなすに方りて用ゐる根本的方法凡そ三あり。層位學的方法、土俗學的方法及び型式學的方法是なり。就中最も單簡にして基礎的のものは層位學的方法 (Stratigraphical Method) となす。これは遺物の發見せらるる層位により、其の上下の關係よりして、該地層が後世攪亂せられざる限りは、同一地點に於ては下層のもの上層のものより古く、異りたる地點に於いても、同性質の層位より發見する遺物は略ぼ同一古さを有するものなりとする原則を言ふ。これ遺物の置かれたる地表以上に漸次土壤其他を構

成し、時代の經過大なるに従ひ、其の厚さを増すの事實を基礎とす。但し層位の深さは常に同一年處を意味するものに非ず。後世擾亂の有無を注意すること最も肝要なりとす。

此處に所謂層位とは地質學上の地層 (strata) の義に非ず。一の沖積層中に於いても多少構造を異にする場合は、悉く之を別箇の層 (layer) に在りし云ふ。例へば羅馬のフォルムの Comizio の地點に於いては地表下四米突間に約廿三の異なる層土あり。最近發見せられたる越中氷見の洞穴に於いては約六層、松島宮戸島の遺跡に在りては約十層を數ふ可しと云へり。斯の如く層土の構造を明に區別し得る遺跡に於ける遺物は、其の新古の關係を最も明瞭に認識し得可く、斯學上最も有益なるものと云ふ可し。

五九、土俗學的方法 即ち Ethnographical Method と稱するものにして、同一境遇にある人類、同一文化の程度にある人類は、類似若しくは同一の技術を有し、若しくは器具を有すとの原則による研究方法を云ふ。吾人は古代の遺物に於いて其の用

途不明なるものは現今同一文化程度にある民族間に於ける土俗中に其の參考資料を發見し、之が解釋の鍵鑰を發見す可く、同一器具技術を有する現存民族に於いて其の社會的生活の實際を髣髴するを得可し。又同一民族に於いても、一地方に於いて既に絶滅せる器具或は其用途が、他の地方に残留する場合あり。此等を參考して研究する方法は皆な土俗學的方法に屬す。吾人は此の方法の應用に於いて人類學土俗學上の智識及其の協力に俟つこと最も大なるを見る。

例へば我が古墳發見の勾玉の起源を、現今未開野蠻の民族間に於ける狩獵の際の風習より、之を獸牙獸齒に發すさするが如き又た古代石器の製作方法を現今の野蠻民族中に遺存するものより之を研究するが如き是れなり。特に北米合衆國の學者は亞米利加印度人の土俗を研究して、考古學上の研究に資せるもの多しとす。此の點に於いて現代の野蠻人は「現代に於ける古代民族」に外ならず。又た一地方に古代の技術の遺存する例は、古代土器製作術が祭器の製作法として、近く山城岩倉村幡我に

殘存せしが如きその一なり。

#### 四 型式學的方法

六〇、型式學的方法とは前述の層位學的方法により時代の先後を決定すること能はざる際に用ゐる方法にして、凡て人類の製作品は生物界の現象と同じく、一の新型式は必ずや古き型式より變化し來れるものにして、年月と共に單簡自然的のものより複雑人爲的のものとなると云ふ進化論的原則より出發するものなり。此の方法により吾人は一の型式と他の型式との先後を相對的に推定することを得、固より型式の發展は物品の種類により其の遲速を異にし、或は時に退歩墮落の傾向を取ることあるも、大體に於いて此の原則によりて支配せらるゝを通則となす。(Typological Method)

六一、原型式とルデメント型 型式の最簡最古なるものを稱して原型式 (Prototype) と名く、時に新しき型式に却て簡單なるが如く見ゆるものある

もそは外見に止り根本的のものに非ず。乃ち簡單にして自然的なる型式は古く、複雑にして人爲的なるものは新しとなす。又型式發達の順序先後を定むるに際して注意す可きは、博物學者が生物の形態に認むる所の所謂ルデメント型 (Rudimental Form) を發見することは是れなり。是は嘗ては一の機能フンクシオンを有せし部分が、後ち其の意義を失ひて唯だ痕迹を止むるものを云ふ。而して一の遺物の部分に於いて此のルデメント型を存するものは、其の實用をなせる部分を有するものよりも後型に屬し、同じくルデメント型に於いても、其の簡單型式になれるもの程新型式に屬するを見る。即ち此のルデメント式の研究は形式の退歩逆行的過程の研究に他ならず。

例へば祝部土器の提瓶中環耳のものは實用をなせる部分なるも、鈎耳より更に瘰耳に至りてはルデメント型として存するのみ。

〔高橋氏考古學、七八頁參照〕

六二、共存關係 一遺物の新古を型式學的に順序するも、此の假定は未だ安全なりと云ふを得ず。

該遺物と共存 (Co-existence) する他の遺物の型式學的順序が之と並行すること多數なるに従つて、漸く安全性を増加す可し。又た或種の遺物は型式學的順序を立し難きも、之れと共存する遺物に於いて、之を設定し得可き場合に於いては、此の並行事實 (Parallelism) によりて新古の順序を推定し得可し。即ち一種の遺物 A B 等の型式が他の種の遺物の型式 a b 等と

(I) A—a  
B—b  
C—c  
D—d  
E—e

(II) A—a  
B—b  
C—c  
D—d  
E—e

の場合の如く錯倒なき並行を重ねること數多きに従つて其の確實を増す。モンテリウス氏は此の並行事實が單に一度なる時は是れ徵迹 (Andeutung) に過ぎず、三十回に近くして確實に近づく (Wahr-

scheinlich) それ以上に至れば確實 (Gewissheit) 云ふを得べしとせり。若し此の並行に於いて

(III) A B—b  
C—c  
D—d  
E—e

(IV) A b  
B—c  
C—a  
D—e  
E—d

の如き錯倒あらば、其の何れかの型式順序の設定に誤謬あるを示すものなり。

モンテリウス氏は其の著 *Die Kulturperioden in Orient und Europa* (1903) に於いて此の型式學的硏究法を詳論し、伊太利發見の留針銅斧等を例證せり。大に参考に資す可し。又た此の硏究を紋様に応用せるものに Goodyear 氏の *Grammar of the Lotus* (1901) あり。

六三、型式學的硏究は器物の形式模様等の單簡なるものに於いて其の硏究最も容易にして且つ適切なるも、美術的作品の様式に至りては作者の個性其他の要素加はり、之が硏究困難複雑を加ふるを見る。要するに人類は凡ての者に於いて突然一の新型式を作ること能はず。必ずや一の型式は他



の型式より發展變化し來れるものなること、他の生物界の諸現象と同じく、進化論の原則に支配せらるゝものなるを知る可し。型式學の方法も畢竟此の進化の大原則の應用の一端のみ。(此章未完)

## 歐洲西部戰場の地理觀

理學博士 小川 琢 治

五年に亘つた世界戦争は彌獨逸の降伏に等しき利である。

休戰條約によつて終結した。其の突發の初に當つて我々の交戰國の國土人口資力によつて打算した我が聯合國側の勝利を得べき權衡は屢獨塊兩國の惡辣なる手段によつて顛覆されんとしたが、終に陸上及び海上に於て揮うた暴力が自からを禍して戰敗者として屈服するの已むなき窮境に陥つた。是は獨逸國民としては支那人の所謂天道還るを好むといひ、己に出たるものは己に還るといふ悲惨な判決に服従したもので、暴力に對する正義の勝馬尼の參加と潰敗、塞耳維の全土喪失等續出して

之を戰場に就いて觀れば、戰局の初期に於て白佛兩國に跨る西部戰線と、東普漏士波蘭及びガリシア戰線及び塞耳維西戰線の東部兩戰線から成り伊太利の宣戰によつて北伊太利の南部戰線が附加られ、更に勃俄利亞、土耳其、希臘、モンテネグロ、四國の加入によつてバルカン半島は亂麻の如く入り亂れて戰つた。然るに英國のガリポリ半島及びバグダット遠征隊の敗戰、露國の敗績、羅馬尼の參加と潰敗、塞耳維の全土喪失等續出して